

鳥取市政懇話会（第4回）
「鳥取市版アジアゲートウェイ構想」部会議事概要

日 時：平成22年6月3日（木）午前10時50分～正午

場 所：鳥取市役所本庁舎6階 全員協議会室

出席者

【委 員】兼田 肇委員、川上一郎委員、清水昭允委員、田中仁成委員、谷口博文委員、
山崎祥次委員、山本大順委員

【鳥取市】大田経済戦略課長

【事務局】平田

【オブザーバー】ジェトロ成田所長

部会長あいさつ

市・県の連携を含めた取組み状況を報告・説明していただき、その取組みについて議論したい。

報告

○大田課長 **資料1**～**資料5**により市・県の取組みを説明。

- ・環日本海定期貨客船航路について・・・・・・・・資料1
- ・環日本海経済交流の取組み状況について・・・・資料2
- ・鳥取市副市長のウラジオストク市訪問・・・・資料3
- ・環日本海拠点都市会議について・・・・・・・・資料4
- ・中国太倉市・蘇州市訪問について・・・・資料5

意見交換

●部会長

- ・中古車、自動車の部品等は向こうのニーズとしてはある。
- ・中古車輸出に関して、関税は一年に何回かわるのか。

◆成田所長

そういうわけではない。逆にそれがわからないからやりにくい。

●委員

- ・ウラジオストクは、ヨーロッパのような町並みで魅力のある町だが、馴染みという点では韓国や中国に遥かに劣っている。ロシアの場合は、韓国や中国のように地道な、個人的な交流から進めないといけないのでは。
- ・DBS クルーズの場合は、韓国から来て大山に登ってすぐ帰るとか関心を持つ人は多い。人、観光客は施策を打てば、ある程度響いてくると思うが、大きな課題は貨物であり、非常に深刻だと伺っている。
- ・東部でどういう具体的な物産・特産物が韓国、中国、ロシアに対して、可能性がある

のかを検討するのは、この部会だけでは難しいと思う。

- ・企業が中古の農機を集めている等、個別の具体的な企業が何をしているのかりサーチする必要がある。また、そういう可能性を探っている企業の生の声を聞いてみたい。
- ・それを行政がどれだけバックアップできるかである。

●委員

各国の投資計画をある程度考慮しながら対応しないと、鳥取だけが頑張っても空回りする可能性がある。向こうの戦略をもう少し把握する必要がある。

●委員

- ・総論としては、今まで議論されたようなことだと思う。問題はこれから具体的な問題になると、この部会だけでは限界がある。
- ・手法が確立されていない、受け皿もない、人間関係もない、それを一気にベースを整えてから物を動かすというのは大変だと思う。物を動かしながら、それをひとつの突破口にして、手法を確立していくという取組みが必要。
- ・専門的なプロジェクト的なものに絞り込んで、一つでも二つでもモデルケースにして、それをいろんな角度から支援する方法が有効ではないか。
- ・農産物でいえば、これから新たに開発するのでは遅い。今あるもので、その魅力を引き出す取組みから入っていくべき。

●委員

- ・相手もまだこちらのことが手探りでしか分からない。市民レベルの文化交流等のバックアップ体制を強化してほしい。
- ・鳥取市版アジアゲートウェイ構想というのは、直接、鳥取へ来てもらうのか、あるいは境港市に来た人をこっちに来てもらうのか。それを整理しなければいけない。
- ・特に鳥取県はまだ貿易が活発ではないので、韓国、中国、ロシアとの交易の部分と観光の部分とを整理して組立てた方がいい。

◆成田所長

- ・山陽地方、関西地方、西日本の玄関口としての境港・鳥取の役割という形で捉えるということも必要。
- ・人の動きに合わせて物流をどう拡大していけるか。ひとつひとつの事例を積み重ねていくというのがなにより大事だと思う。

●委員

- ・まず、観光がベースにあって、人が動いて、次に物流だと思う。
- ・物流となると専門的な方のアドバイスを受けながら進めていくことになる。

●委員

- ・一番大事なものは相手との信用関係である。まず、信頼関係を築き、窓口がきちんと出

来ているというところからの話である。

- ・今の段階では、行政サイドが先行して信用と窓口を創る。そこから始まり、次に市民に下ろして、初めて理解が得られ、動きやすくなると思う。

●委員

- ・物流と観光の考え方は違う。物流・観光別、また、国別等に分けて整理して考える必要がある。
- ・人的な交流もないところから、いきなりビジネスは難しい。青少年交流、文化交流から始める方が現実的である。
- ・年配になると船の旅は大変である。そう考えると大学生の洋上セミナーは一押し。

○大田課長

- ・ロシアについて話をするのは初めてであるが、あくまでチャンネルを 1 個作るということ。
- ・行政の役割は、チャンネルを作りながら、やりたいというところがあればそこに支援をすること。窓口を増やす中で、ひとつでもチャレンジされるところに参入を支援していくという役目。

●委員

ロシア政府としては、極東地域をどう発展させようとしているのか、そういった情報は入らないか。例えば機械工業を発展させたいのか化学工業なのか。

○大田課長

- ・今、情報はないが、研究したいと思う。
- ・ロシアは、ウラジオストクを環日本海の玄関口にするということですのでごく力を入れている。

●委員

商工会議所の中で、ロシア・中国・韓国貿易を、実際しているとかあるいは期待している方はないか。

●部会長

- ・あまりない。ビジネスとして単発でやったのでは成立しにくい。
- ・交流はあるかも分からないが、実際にビジネスとしてビジネスチャンスに繋がるかと言えばそこまではいっていないのが現実。

●委員

行政側が、パイプを太くしていくという、信用・信頼のインフラ整備をしていただきたい。

●部会長

やはり、入口部分を行政できちんとしてもらい、そこから個別にという流れが必要。

●委員

やはり、ビジネスという話だと、失敗する可能性が高いと怖くていけない。そうすると、島根に流れる人を鳥取に来てもらうという交流の話になると思う。

●委員

- ・境港市の商工会議所の会頭も、環日本海に対する意欲は強烈。
- ・境港市の取組みで参考になるようなものがあれば聞きたい。

○大田課長

境港は、韓国にお酒を出している。そういうのは動きやすいと思う。

●委員

千代むすびさんが酒を出しているようだ。そういう事例が分かればと思う。

○大田課長

また事例を調べておく。

●委員

企業サイドから見れば、行政の後についていくのはあり得ないと思う。私企業では取れない情報等を提供してほしい。

◆成田所長

鳥取の企業の関心が、どこにあるのかをよく把握し、情報提供できるようにしたい。

●部会長

中国だったら、境港からコンテナで3、4便出ていると思う。米子では向こうからも輸入するし、こちらも出すということをしている。東部地区は。

○大田課長

これから合銀との連携等でやっていく。

●委員

市にはロシアの方の国際交流員はいるか。県にはいる。この会で、その方から、国情等の話を聞くのもいいのでは。

○大田課長

鳥取市には、ロシアの方が3人住んでいる。留学生はいない。中国には、留学生が帰

って会社をしている方もいる。そこと結び付けたい。

●委員

ゲートウェイ構成という、ひとつの命題をいただいた。DBS をどう発展させるか、鳥取を開く形でアジアとの貿易をどうやって拡大するかである。

●委員

- ・何か方向付けや考え方の整理が求められる。
- ・部会として、意見は出尽くしたと思う。市で、観光、物流、専門的な具体的な問題・課題、いろいろな分野で整理してほしい。それをたたき台として議論したい。

○大田課長

次回までに整理して骨子を作り、それをたたき台に肉づけをしていただきたい。

●部会長

今日で皆さんの意見が出た。出た意見を、市長の思いも含めどう整理するのか考えたい。

○大田課長

庁内プロジェクトチームには、物流部会、観光部会があるので、そこでも議論したい。

●委員

取組むスパンでも考え方が違ってくるので、その整理も必要である。

●部会長

事務局とも調整しながら、市長の意見も聞きながら、まとめていきたい。

閉会